

新型コロナウイルスに関する社会奉仕事業 アンケートのレポート



国際ロータリー第 2580 地区社会奉仕委員会

2020 年 10 月 8 日

国際ロータリー第 2580 地区社会奉仕委員会は、2020 年 5 月 11 日から 2020 年 6 月 26 日まで「新型コロナウイルスに関する社会奉仕事業アンケート」を実施しました。国際ロータリーとは経営者と専門職、地域社会のリーダーが集まる国際的組織です。世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。第 2580 地区とは東京北部と沖縄をエリアとして、70 クラブがあります。

1. 新型コロナウイルスへの迅速な対応

アンケートの回答を合計すると（上記期間の寄贈予定を含む）、マスク 37,428 個、フェイスシールド 11,624 個、防護服 3,500 個の寄贈となります。寄贈先としては、地元の医師会、医療機関、市役所・区役所などとなっています。

なお、新本博司直前ガバナーが推奨された「新型コロナウイルスに対する医療貢献事業（フェイスシールド寄贈）」へは 63 クラブが協力し、フェイスシールド 44,160 個を東京都医師会と沖縄県医師会へ寄贈しました（6 月 8 時点最終判明分）。

クラブによるマスク、フェイスシールド、防護服の寄贈についてのトピックは次のとおりです。

東京神田 RC「手作り防護服支援」:

金井一成前年度社会奉仕委員長より。「当クラブ会員が東京都済生会中央病院の知人から防護服が逼迫していることを聞き、東北気仙沼のボランティアの協力を得て、簡易防護服を手作りして提供することになり



ました。当クラブの会員に支援の寄付依頼がありました。気仙沼には大震災以来、地区への児童養護施設への支援を継続的に実施している縁で協力していただけになりました。当クラブでは 3 月初めより活動を休止し、例会、役員会そして社会奉仕委員会も開いていないので、まだ当クラブとしてオーソライズできておりませんが、自粛解除後直ちにクラブとして活動に入る予定です。また地区補助金の申請も予定しております。すでに 5 月 14 日現在 3,100 着の防護服が済生会病院に送付されたと報告を受けております。余力が出れば他医療機関へも提供していこうと考えております」。

新型コロナウイルスの第一次的な影響である、マスク、フェイスシールド、防護服の不足に対して迅速な対応を行いました。東日本大震災にて支援を受けていた方々が支援を行う側となりました。ロータリークラブがその機会の提供、かけ橋となりました。

2. 新型コロナウイルスに対する今後の方向性

今後の方向性として考えることができるのは、次のとおりです。

(1) 新型コロナウイルスの第二波に備える

こと。マスク、フェイスシールド、防護服などの提供を迅速に行えるようにする。

(2) 新型コロナウイルスの経済的な影響として、失業者の大量発生、貧困世帯の増加、子どもの生活・教育の質の低下、社会的負のスパイラルの発生を防止すること、備えること。

既に動き出しているクラブがあります。

東京紀尾井町 RC「母子家庭への食品提供」:



奥寺邦俊前年度会長より。「以前より当クラブでは子どもに対する支援を重点に奉仕活動をしてきました。今回の新型コロナウイルス感染拡大により、子ども食堂が閉鎖されました。そんな中、食堂は閉鎖したが資金も少ないのにお弁当配布をしている NPO 法人キッズ未来プロジェクトのことを知りました。まず、2 回ほどお弁当の食材費支援、食材配布会での食材支援をしました。また、昨年より当クラブが支援している NPO 法人リトルワンズにも現状を聞くと貧困母子家庭はドンドン状況が悪くなっているようでした。当クラブでもここは思い切った支援が必要だろうということでニコニコ会計よりの追加支出を決めました。NPO 法人リトルワンズに登録する貧困母子家庭 100 世帯に対し、文具や食材等の支援を 6 月中旬までにします。貧困母子家庭では 1 日 1 食の家庭もあり本当に切迫しています。その家庭に対しスピード感を持って支援が出来たのはロータリーの力だと感じています」。

那覇東 RC「生活困窮者への食糧品の提供」:

宮平良哲前年度社会奉仕委員長より。「新型コロナウイルス等が原因の生活困窮者への食糧品の提供をしています。2020 年 5 月 25 日～5 月 29 日まで、西原町社会福祉協議会を通して、1 日 50 個の弁当の提供を行いました」。

浦添 RC「困窮家庭への粉ミルク贈呈」:



「2020 年 6 月、浦添市社会福祉協議会を通して、コロナ禍における乳幼児を抱える困窮家庭へ粉ミルクの贈呈を行いました」。

3. まとめ

新型コロナウイルスの影響下においても、ロータリークラブが社会奉仕事業によって地域に貢献すること、その先を見据えることは変わりません。地域の課題／ニーズをとらえて、社会奉仕事業としての地域へのパフォーマンスを高めることが求められています。